

あ ゆ ち
Ayuchi
[No.96/2023.10]



「あうん」 大坪與七郎さん作

石の世界へ

「石ってなんだろう」という思いから
愛知大学教授の西本昌司先生に話を伺ったら、
とても奥が深いものでした。
今回は、身近に楽しめる石の世界に
ついて紹介したいと思います。



のだろうか。

鉱物とは自然にできた結晶。つまり、ものを作っている粒（原子）が、規則正しく並んでできたものだ。

この鉱物がいろいろ集まってできた塊が、岩石である。

岩石には、大きく分けて火成岩、堆積岩、変成岩の三種類がある。

■火成岩

地中にあるマグマが冷えて固まったもの。地表近くに上昇し急速に冷えてできるものと、地中でゆっくり冷えてできるものの二種類がある。



■変成岩
火成岩や堆積岩が温度や圧力の高い場所に運ばれ、鉱物の種類や形が変化してできたもの。
ちなみに、私たちが石と呼んでいるものほとんどは岩石にあたる。

生い立ち語り模様

石を手にしたとき、「この模様おもしろいな」「この色、形いいな」と思ったことはないだろうか。さまざまな模様や形、色は石の持つ魅力の一つだが、その魅力をもう一步踏み込むと、そこには石それぞれの物語が見えてくる。

模様には、縞模様や斑点模様、ひび割れ模様などがあり、一つとして同じものはない。この模様を作っているのが、鉱物の粒の並び方だ。含まれている鉱物の粒の量や混ざり具合によっても模様は変化する。そして、地球の変動で押し上

石は何でできていますか？

普段、私たちは道端や川原、海辺に転がっているものを石と呼び、大きいものは岩と呼ぶ。この石や岩という呼び名は、一般的な名称であり、科学的な名前は岩石、鉱物という。では、岩石と鉱物は何が違う



げられたり、削られたり、強い圧力で押しつぶされたり、急速に冷えたりと実にさまざまな過程を経て作られていく。まさに模様は、その石の生い立ちを表しているといえるだろう。

松脂岩とカオリン

ところで「県の石」というのがあることをご存知だろうか。

これは、日本地質学会が五月一〇日が「地質の日」に制定されたことちなみ、各都道府県で産出または発見された特徴的な石を県のシンボルとして選定したものだ。正確には、県の石は岩石、鉱物、化石の三つに区分される。

愛知県の石は何かというと、岩石は「松脂岩」、鉱物は「カオリン」となっている。松脂岩は鳳来寺山（新城市）周辺に広く分布し、日本では珍しい石であることから、カオリンは瀬戸市で採取される良質な陶土で、愛知の陶磁器産業を支える原料であることから選ばれたようだ。



松脂岩 名前のとおり、樹脂の松脂のような光沢を放つのが特徴。マグマが急冷してできたガラス質の岩石で、鉱物の結晶をほとんど含まない。黒曜石のなかまだが、含まれている水分量が黒曜石より多い。



鳳来寺山の鏡岩

カオリン

粘土質の鉱物で、水を加えることで柔らかくなり、こねて好きな形を作ることができるのが特徴。鉄分などの不純物をほとんど含まないため、白く美しい陶磁器の素地をつくることができ、原料になっている瀬戸の焼き物が有名である。



松脂岩で有名なのは、国の名勝天然記念物にも指定されている鳳来寺山の鏡岩。圧倒されるほどの壮大な景色は、ぜひとも間近で見たいものだ。

昔は火山だった!?

鳳来寺山の鏡岩のほとんどが松脂岩。マグマが冷えて固まることができる松脂岩があることで、火山がない愛知県にも、約1500万年前には火山があったことがわかります。



Special

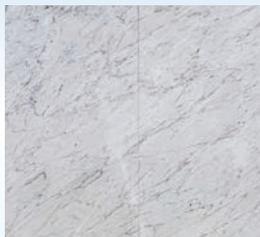
Special

石の模様を活かす柄合わせ

建築物の壁や床に使われている石は、採掘場で切り出された直方体の石をスライスしたものです。もとは同じ石の塊のため、似たような模様の石板ができ、それをどう並べて見せるかというのが、柄合わせと呼ばれる手法。並べられた柄を見て、どの石板が同じ塊のものか想像してみるのも楽しいでしょう。



■ブックマッチ
模様が左右、上下対称に見える並べ方の柄合わせ



■片流れ
ラインが流れるように見える並べ方の柄合わせ

地球が生み出した芸術品の石を「どうやってできたのか」を考えながら見ると、また違った感じ方を
楽しめ、新たな世界が広がるだろう。

山や海岸沿いの岩壁が、火成岩の一種である花崗岩^{かこうがん}であれば、本来は地中の深いところにあるもの。それが、目の前に広がっているすごさ。そして、実際には不可能なマグマ溜りの中に身を置けるというすごさ。石の模様を見ながら、それができた頃の風景を想像していると、西本先生はいう。

地球が生み出した芸術品の石を



さまざまな種類の石材が使われた名古屋市役所庁舎内

日常のすき間時間に、少し視点を変えて街を見渡してみると、さまざまな表情の石が発見できる。

地球が生み出した芸術品

地球は、岩石の塊だ。海沿いや山で見られる岩壁は、地殻変動などで地中にあるものが押し上げられて現れたものであり、石ころは地球の表面が削られてできた地球のかけらだ。長い月日を費やし、地球の歴史が刻まれた模様は、岩石の大きさが大きくなればなるほどダイナミックな景色を見せてくれる。

今回話を伺った西本先生に石の魅力聞いてみると、「人間では到底かなわない、地球の力を感じる」と教えてくれた。

山や海岸沿いの岩壁が、火成岩

の一種である花崗岩^{かこうがん}であれば、本来は地中の深いところにあるもの。

それが、目の前に広がっているすごさ。そして、実際には不可能なマグマ溜りの中に身を置けるというすごさ。

石の模様を見ながら、それができた頃の風景を想像していると、西本先生はいう。

地球が生み出した芸術品の石を

「どうやってできたのか」を考えながら見ると、また違った感じ方を

楽しめ、新たな世界が広がるだろう。

山や海岸沿いの岩壁が、火成岩

の一種である花崗岩^{かこうがん}であれば、本来は地中の深いところにあるもの。

それが、目の前に広がっているすごさ。そして、実際には不可能なマグマ溜りの中に身を置けるというすごさ。

石の模様を見ながら、それができた頃の風景を想像していると、西本先生はいう。

地球が生み出した芸術品の石を

「どうやってできたのか」を考えながら見ると、また違った感じ方を

楽しめ、新たな世界が広がるだろう。

知って
た!?

石都と呼ばれるまち、岡崎

愛知県岡崎市は、日本三大石材産地の一つです。良質な花崗岩の産地であり、石灯笼などの石文化が栄えてきました。その優れた技術は現代にも受け継がれ、日本有数の石職人が石都・岡崎を守り続けています。岡崎のまちのいろいろな場所に石造や石のモニュメントがあり、散策しながら石文化に触れられます。

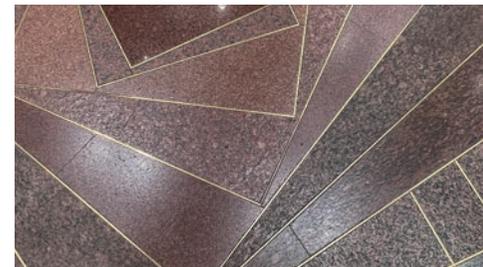
まちの中で出会える石

川原など自然が多いところでは、いろいろな大きさや形の石と出会えるが、まちの中でもさまざまな石と出会える。歩道、建物や地下街の壁や床、お城の石垣、モニュメントなど石が使われているところは以外に多い。少し意識すれば、姿を変えた石が身近にあることに気づくだろう。



名古屋駅の地下街セントラルパークの床

まちで見られる石の楽しみ方はいろいろある。まず一つは、デザインを楽しんでみる。例えば、色や種類の違う石を組み合わせたモザイクを、「手が込んでいるな」「どうやって作ったんだろう」と思いながら見るのもいい。石そのものの模様が何の形に見えるのか想像したり、化石を探すのもおもしろいだろう。



名古屋駅地下街ゲートウォークの床



名古屋駅地下街サンロードの床

知って
た!?

国会議事堂の外壁候補に!? 豊田の石

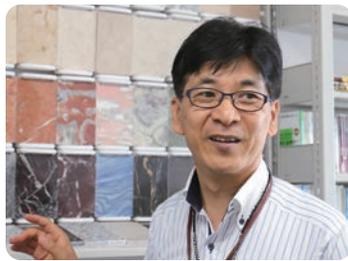
また、まちで見かけた石と同じものが使われている歴史的建造物を探すのも一興だ。使われている建造物やその国の風景を想像しながらその石を眺めれば、また違った気分での空間を楽しめるだろう。さらに石への興味が高まれば、その模様がでるまでの石の一生に思いを馳せてみよう。今日にしている石が、何千年、何億年前にできたことを考えるだけでも、ワクワクしてくるのではないだろうか。

国会議事堂の外壁、内壁、床、階段などあらゆる場所に国産の石が用いられています。外壁に用いる石材については、全国の石材産地を調査し、六つの石が候補に挙がり、そのうちの二つが愛知県豊田市(旧西加茂郡)産の高橋石と富田石でした。惜しくも選ばれず残念…。



化石は建物の壁などによく使われている大理石で見つかるかも!?(ゲートウォークの壁)

西本先生の石コレクション!



西本昌司 先生

愛知大学教授。博士(理学、名古屋大学)。専門は地質学、岩石学、石材。名古屋大学博物館研究協力者、NPO法人サイエンスサービス理事、NHKラジオ「子ども科学電話相談」回答者を兼務し、地球科学の振興に努めている。著書に「名古屋で見つける化石・石材ガイド」(風媒社)、「街の中で見つける「すごい石」」(日本実業出版社)、「特徴がわかる観察を楽しむ岩石図鑑」(ナツメ社)などがある。



肉のように見える石



約6億年前の化石シアノバクテリアが模様になったストロマトライトという岩石



貝の中から鉱物の結晶ができて、石に変わっていく途中。



煙水晶



「頭隠して尻隠さず」状態の三葉虫が一体化した石

■取材・撮影協力 / 西本昌司さん

■参考資料 / 街の中で見つける「すごい石」(日本実業出版社)、これだけは知っておきたい 岩石・鉱物図鑑(バイ インターナショナル)、おもしろサイエンス岩石の科学(日刊工業新聞社)、自分で探せる美しい石 図鑑&採集ガイド(実業之日本社)

考え、行動すること、
人生はもつと楽しくなる。

岡本範重

（愛知県教育スポーツ振興財団理事長
愛銀教育文化財団 評議員）



■岡本範重 プロフィール

昭和 36 年、名古屋市で生まれ、江南市で育つ。中央大学法学部卒業後、昭和 59 年に愛知県庁に入庁。知多事務所民生課に配属され、福祉関係の仕事スタート。平成 12 年より健康福祉部に異動し、保健医療局、福祉局を経て現職。日本 100 名城に続き、続日本 100 名城や一宮を巡り、楽しんでいる。

大学で法律を学び、社会貢献ができる仕事に就きたいと思い、愛知県庁に入庁しました。当時でいう民生部に配属され、その後長く携わることになる福祉関係の仕事の始まりです。

入庁の頃、『福祉が人を殺すとき』という、行政としての厳しい対応が批判された本を読みました。厳しく対応せざるを得ない場合があることも確かで、それは考え方の一つではありますが、厳しすぎて生命に関わるようなことがあってはいけません。現場でしっかりとそのバランスを取り、行うことの大切さを考えさせられました。

皆さんに寄り添い、必要とされている方に適切な支援が行き届くよう励んできましたが、昔に比べて福祉制度は各段に充実し、喜ばしいことです。ですが、より良くしていくためには、皆さんに声をしっかりと上げていただくことが必要です。皆さんの声、現場を変えていくきっかけになりますので、気づかれたことがあれば、ぜひ伝えていただきたいですね。

現在は、愛知県教育・スポーツ振興財団で、県民の皆さんがスポーツや文化・教育に触れられる場を提供する業務に携わっています。小さなお子さまから高齢者の方まで手軽に楽しめ、健康増進に繋がるよう

できることだなど、改めて思いますね。

私は、健康のためにウォーキングをずっと続けていますが、ただ歩くだけではおもしろくないので、東海道五十三次の完歩にチャレンジしてみました。通常の逆のルートで、京都の三条大橋から出発。一日に二〇キロくらいを目途に歩いていました。図書館で旧東海道の街道地図を借り、現代の地図と照らし合わせてみると、旧街道はほぼ国道一号线に沿っています。旧街道に入っていることが多いです。できるだけ忠実に歩きたかったので、国道一号线のほが近道でも、脇道を選んで歩いていました。



よく、「何を考えて歩いているの」と聞かれますが、何も考えていません（笑）。ほとんどが「この道でよかったかな」と地図とにらめっこしていましたが、車では一瞬で通りすぎてしまう風景を、ゆったり眺めて楽しんだりもしました。特に印象深い場所は、静岡です。歩いていくと茶畑が見えてきて、その向こう側に富士山がそびえ立つ風景は、とても清々しく気持ちがいいものでした。

静岡から離れた箱根で富士山が見えたときは、「やはり日本一の山だな」と思ったものです。東京の日本橋に「ゴールした時には、五年の月日が流れていました。それから、次の目標を考えていたときに出会ったのが、『日本の100名城』という本です。全国にあるお城の中から日本城郭協会が選んだ二〇〇か所のうち、九十七か所を巡りました。天守があるところは少なく、ほとんどが城跡。それでも、造られた時代によって違う石垣の積み方や石の形を見たり、その場でその当時のことを考えた

りするのは楽しいですね。歴史上の人物たちは、物事を成し遂げるためには少しでも気になることがあれば考え、先々を読みながら行動していたんだと感じました。

考え、行動することで、人は次の段階へ踏み出せ、成長していくのかもしれない。そんな、やらしみももたらしてくれるのではないかと思います。

これからも、いろいろなことを感じながら、今しかできないことを見つけ、人生を楽しんでいきたいと思っています。――談――

なスポーツの普及活動をはじめさまざまなことに取り組んでおり、中でも子どもたちに関わる取り組みに力を入れています。フットサルやレスリングの大会、バスケット教室やかけっこ教室、キャンプ、絵画コンクールを開催など、子どもたちが喜んで楽しめる企画を行うことで、スポーツや文化に親しめるようにしています。

スポーツや文化は、生活していくうえで必ずしも必要なものではないかもしれませんが、しかし、触れることで心が豊かになるプラスアルファのものだと思っています。そういった意味でいうと、教育は社会生活を行ううえで基礎となる部分を担っていると考え、当財団では教育面でも力を入れていきます。

学びたい人たちの応援するために、中学夜間学級や日本語が学べるステップアップスクールを開講。さまざまな理由で義務教育をしっかりと学べなかった方、外国籍や外国にルーツのある方などが通われています。皆さん、「学びたい」と強い意志を持って通われているので、本当に熱心に勉強されています。

何かにチャレンジしている皆さんは、とてもイキイキしているんです。そんな皆さんの姿が見ていると、健康であるからこそ

早川勝大さんは、現在大学院で『知多地域の山車囃子の継承支援に関する研究』を行っている。知多地域の各市町村では、多くの山車祭りが受け継がれ、一〇〇両を超える山車があるという。早川さん自身、子どもの頃から地元祭りに参加。山車を曳く際に流れる音楽の演奏者、囃子方としてずつと横笛を吹いている。

「山車祭りが、どのように受け継がれているのかに関心があります。特に興味があるのが、お囃子。お囃子の意味や役割を明らかにしたくて、目下研究中です」

調査では、祭りを見学するのはもちろん、地域の人たちが感じていることを一緒に体感したいと思い、囃子の稽古の場などにも参加。曲や演奏方法が、各地域でどのように伝えられているのかを身をもって体験している。

「『伝統として変わらず受け継がれてきました』とよく言われますけど、そんなことはないです。囃子は口伝で伝えられるので、変えないように思っているけど、少しずつ変わってしまうものなんですよね」

楽譜がなく見よう見まねで身に付けていくために生じる変化が、囃子の特徴で魅力でもわかりやすい食物アレルギーの啓発活動を行っている食アレスマイルネット。

オリジナル絵本を通して、子どもたちにもわかりやすい食物アレルギーの啓発活動を行っている食アレスマイルネット。「なぜ同じテーブルで、同じものを食べられないの？」と、当事者の子どものみでなく、周りにいる子どもたちも感じている。そんな子どもたちに、食物アレルギーについてどのように伝えればいいのかを考えたとき、代表の栗田洋子さんが選んだのは、子どもも大人も読みやすい絵本であった。

「絵本は伝えたいことが、軽が落ちるように心に染みわたっていきます。読み聞かせでは、子どもたちは真剣に耳を傾け、より深く伝えることができると思います」

自作した絵本を読む栗田さんの声は、物語りの世界へ誘う力強さ、心に残るあたたかさがある。実際に、小学生のときに栗田さんの読み聞かせに参加した高校生や大学生が、当時に一度だけ聞いた絵本の話覚えていて、聞き、うれしく思うこともあるそうだ。



「いつか、『こんな絵本が必要だったときがあったんだね』と言われるような時代が来るといいなと思います」

食物アレルギーが当たり前に受け入れられ、みんなが笑顔でいられることを願って、子供たちへの読み聞かせ活動は続いていく。



はないかと、調査を通じて感じていた。また、子どもから大人まで祭りの関係者が定期的に集う稽古場は、人と人をつなぐ場としての役割を担い、そこで深められた人間関係が熱い情熱となって祭りを盛り上げていると、早川さんは考えている。だからこそ、活動がまったくできなかったコロナ禍には危機感を感じていた。このまま無くなってしまわないかと。

「今後何十年か先も、お祭りやお囃子を続けていくためにはどうすればいいのか考えるときに、まだまだ研究ですが、自分の研究が参考になればいいなと思っています」

「どんなお祭りも、その地域の人たちにとつてとても価値があるものです。何よりも楽しい！みんなで楽しめる祭りをずっと続けていけるといいなと思います」

食物アレルギーであることで心にかかる負担の大きさ。重症化したとき、声が出なくなり助けを呼びたくても呼べない怖さ。自分の症状を伝えるには勇気が必要であることなど、栗田さんはお子さんとおし身をもつて感じてきた。

「重症化すると命に係わることもありまます。ですが、当事者はもちろん、周りにいる人たちも皆が正しい知識をもつことで、アレルギーによる事故を未然に防ぐことができます。そして、食物アレルギーの子どもの心の負担を少しでも軽くできると思っています」

まずは、知る。ことが大切だと語ってくれた栗田さん。現在は、手軽に持ち歩け、一目でわかる食物アレルギー表示カードを制作中。また、三作目となる絵本の制作にも取り掛かる予定だ。

岡田春祭り(知多市)



イベントでお囃子を披露する中組(知多市)



あぐい山車まつりでの囃子発表風景



みんなで楽しめる場を無くさないために。囃子という視点から祭りを研究。

知多地域の山車囃子の継承支援に関する研究

早川勝大さん

第33回助成(個人)

富山大学文学部人文学科を卒業。卒業論文では、氷見祇園祭を事例に、『都市祭礼における囃子の継承に関する研究』を発表。現在は、名古屋大学大学院人文学研究科に在籍し、週1回のフィールドワークを行いながら研究を続けている。早川さんは、囃子は神主までの行き帰り、見せ場、曲がり角で奏でる曲は決まっており、山車の動きなどに合わせて曲の速さも変わると、囃子のおもしろさを教えてくれた。現在は、奏者であるとともに子どもたちにも教えている。



みんなが笑顔でいられるように。絵本で伝える、食物アレルギーって何？

絵本を使った食物アレルギーの啓発活動

食アレスマイルネット

第31回助成(団体)

2007年に活動をスタートし、7名のメンバーで活動中。幼稚園や小学校での絵本の読み聞かせ活動、読み聞かせイベントの企画・開催、依頼を受けて授業や講演の実施、47都道府県の県庁や県の図書館などに自費出版した絵本の贈呈を企画・運営など、地元である岡崎市を中心に全国で活動を展開している。

公式ホームページはコチラ <https://shoku-alle-smilenet.studio.site>

代表の栗田洋子さん



2023年 5月

- **むすめ歌舞伎** 第31回助成・団体
能楽堂 見て聞いて体験 文化財で知る日本の想像物語 むすめ歌舞伎40周年記念 古典舞踊〔名古屋能楽堂(名古屋市中区)〕
- **森 克徳さん(陶芸)** 第4回助成・個人
森克徳陶展〔画廊アートフロア(高浜市)〕
- **上山明子さん(彫刻)** 第27回助成・個人
上山明子乾漆彫刻展〔六弦とコットン(名古屋市長区)〕

2023年 6月

- **第45回日本新工芸展 出展**〔松坂屋美術館(名古屋市中区)〕
- **森 克徳さん(陶芸)** 第4回助成・個人
新野素子さん(染色) 第2回助成・個人
- **ナゴヤディレクターズバンド** 第8回助成・団体
第53回定期演奏会〔東海市芸術劇場大ホール(東海市)〕
- **彫刻村** 第33回助成・団体
彫刻村50周年記念 石川裕彫刻展「木録―木からのメッセージ」〔ノリタケの森ギャラリー(名古屋市中区)〕
- **劇団名芸** 第30回助成・団体
天白文化小劇場ファンシリーズ「ブレイム」の音楽隊〔天白文化小劇場(名古屋市中区)〕
- **愛知室内オーケストラ** 第15回助成・団体
第57回定期演奏会 指揮：クリスティアン・アルミンク
第58回定期演奏会 指揮：山下一史
〔三井住友海上しらかわホール(名古屋市中区)〕

2023年 7月

- **瀬戸ピース合唱団** 第33回・団体
創立25周年記念公演「サウンド・オブ・ミュージック」〔瀬戸蔵つばきホール(瀬戸市)〕
- **堀籠太郎さん(彫刻)** 第11回助成・個人
第52回東海日影展出展「匠 中村重光氏像」〔愛知県美術館ギャラリー(名古屋市中区)〕
- **愛知室内オーケストラ** 第15回助成・団体
第59回定期演奏会 指揮：小林資典
第60回定期演奏会 指揮：山下一史
〔三井住友海上しらかわホール(名古屋市中区)〕
- **プランタン管弦楽団** 第33回助成・団体
第21回定期演奏会〔愛知県芸術劇場コンサートホール(名古屋市中区)〕
- **語人 サヤ佳さん(語り活動)** 第26回助成・個人
パルクとよた「生き生き活動」〔花さき山「私のこと」〕〔パルクとよた(豊田市)〕
駒新ふれあいサロン「花さき山」〔新美南吉の生涯〕〔木の祭り〕〔駒場自治区駒新会館(豊田市)〕

2023年 8月

- **Musikus(クラシックコンサート)** 第22回助成・団体
ほっとサマーコンサートNo.10 音楽物語「せいかい ちのいし 石のスープ」〔8/22東海市芸術劇場(東海市) 8/23半田空の科学館(半田市)〕
- **愛知歴史研究会** 第7回助成・団体
第152回富士見セミナー「継体天皇と尾張氏」～東海の首長と大和王権との関係～〔愛知歴史研究会(名古屋市中区)〕
- **愛知室内オーケストラ** 第15回助成・団体
第61回定期演奏会 指揮：山下一史〔三井住友海上しらかわホール(名古屋市中区)〕
- **新城吹奏楽団** 第6回助成・団体
サマーコンサート〔新城市つくで交流館ホール(新城市)〕
- **平松八江子さん(ピアノコンサート自主企画)** 第6回助成・個人
『わくわく おやこ夏祭り』『おやこふれあいミニコンサート』に出演〔名古屋学院大学名古屋キャンパスたいほう(名古屋市中区)〕

仲間達の近況メモ

● **劇団天白月夜** 第31回助成・団体
2023原駅タウンサマーフェスティバルに参加〔天白文化小劇場(名古屋市中区)〕

2023年 9月

- **愛知歴史研究会** 第7回助成・団体
謎解き発見!木曾川鶴鶴!謎解き発見シリーズ第6弾-〔木曾川鶴鶴と瑞泉寺山周辺〕
- **愛知室内オーケストラ** 第15回助成・団体
第62回定期演奏会 指揮：ユベール・スターン
第63回定期演奏会 指揮：山下一史
〔三井住友海上しらかわホール(名古屋市中区)〕
- **中谷ゆうこさん(美術制作)** 第25回助成・個人
ひかりのざわり 中谷ゆうこ展〔ハートフィールドギャラリー(名古屋市中区)〕
- **劇団天白月夜** 第31回助成・団体
創立5周年本公演「天白桜町日記」〔天白文化小劇場(名古屋市中区)〕
- **MARImbart(打楽器の演奏)** 第23回助成・団体
「打フェスタ with MARImbart Vol.X VII」、MARImbart ∞インフィニティ「レクチャー& Concert」〔名古屋市中区文化小劇場(名古屋市中区)〕

書籍・会報誌等の発行

- **東海化石研究会** 第31回助成・団体
4月…東海化石研究会誌「化石の友」68号発行
- **まつり同好会** 第25回助成・団体
5・7月…「まつり通信」625・626号発行
- **はんだ郷土史研究会** 第19回助成・団体
5・7月…「はんだ郷土史だより」第108・109号発行
- **野田史料館** 第1回助成・団体
5月…「野田史料館報」第166号発行
- **江南郷土史研究会** 第3回助成・団体
6～9月…「江南郷土史研究会 会報」532～535号発行
- **小牧市文芸協会** 第2回助成・団体
6～8月…郷土文芸誌「駒来」第617～619号発行
- **愛知歴史研究会** 第7回助成・団体
6月…「あいち歴史会誌」第180号発行
- **春日井郷土史研究会** 第15回助成・団体
7月…「春日井郷土史」第8号発行
- **愛知中世城郭研究会** 第30回助成・団体
8月…「愛城研報告」第26号発行
- **古地図研究会** 第29回助成・団体
9月…名古屋北部の変遷について～江戸後期より現代まで～ 発行

YouTube

● **菅谷瑞恵さん(教育・演劇)** 第33回助成・個人
「満蒙開拓を語り継ぐ」手記朗読プロジェクト〔毎週月曜日22:00～ 配信〕

※ここには事務局に入った連絡分をまとめて掲載しました。連絡状況によって、掲載のタイミングがずれる場合があります。ご了承ください。今後も皆さんの活動状況をお知らせいただければ幸いです。

表紙・作品

● **作者の言葉**
神社やお寺などでよく見る「あうん」の獅子。江戸時代の文獻に、「角獣の「あうん」の獅子がありました。その獅子をもとに、柿渋を染料にして型染めし、麻の暖簾に仕立てました。動きのある獅子の姿を感じていただければ幸いです。

「あうん」縦100×横110cm
麻布に柿渋染め
大坪與七郎さん作 第33回助成



「楽器の演奏ができないので、外部の指導者の方に演奏指導をお願いしていますが、生徒たちはスポンジのようにどんどん吸収して、すごいですよ」とい

「先輩たちが本当に優しく教えてくれて、一つひとつできることが増えていくので楽しいです」

ゼロからスタートしてどんどん上達し、今ではさまざまな曲を演奏するまでになった姿に、顧問の鬼頭典子先生は驚くばかりだ。そんな鬼頭先生も、向陽高校に来て初めてジャズオーケストラに出会った一人である。



「合奏で一人一人の音やタイミングを合わせるの難しいです。それがピタッと合ったときは気持ちいいです！」

安田さんを、「頼りがいがある」という部員たちのチームワークは上々。演奏会や大会で観客が拍手などとして一緒にノックられてくるのを見ると、楽しさが倍増すると、皆口々に話してくれた。

「上手くないこともあると思いますが、やってみよう」という気持ちに軸に前へ進む姿勢を応援しています」

校長の秋田直孝先生は、部員たちから熱いエネルギーを感じている。聴く人の心を躍らせ、笑顔にしてくれるジャズオーケストラ部の今後の活躍が楽しみです。

現在の一年生が六一代目となる、歴史ある向陽高校ジャズオーケストラ部。ジャズオーケストラには、さまざまな演奏形態がある。向陽高校の演奏形態はトランペット、トロンボーン、サクソ、ドラム、ベース、ギター、ピアノからなる一七名編成を基本とするビッグバンド形式だ。

中でよく耳にするのが、「楽しく演奏しなさい」という言葉だ。この言葉を常に心に留めているのか、部員たちが演奏する姿からは楽しさや喜びが伝わってくる。

普段の練習をとりまわっているのは、コンサートマスターの安田幸将さん。コンサートミストレスの石川陽花梨さんとともに、ときに厳しい言葉をかけながらもみんなを引っ張っていく。



コンサートミストレスの石川陽花梨さん



校長の秋田直孝先生

**楽しく演奏することを第一に！
息の合った演奏で観客を魅了する。**

ジャズオーケストラ部
名古屋市立向陽高等学校
第32回援助(高校生)

令和3年に軽音楽部からジャズオーケストラ部に名称を変更。現在の部員数は31名。Japan Student Jazz Festivalやたかつきスクールジャズコンテストなどの大会に出場。Japan Student Jazz Festival 2022では優秀賞を受賞している。文化祭など学内イベントをはじめ、愛知県高文連開催の器楽・管弦楽専門部の演奏会など、名古屋を中心に演奏会や地元のイベントや演奏会などにも参加し、数々の舞台で演奏を披露している。



第34回(令和5年度)

助成および援助対象先決定 (敬称略)

コロナ禍で苦しいときも、私たちの心を癒してくれる様々な文化や教育。選考委員会の厳正な審査の結果、アクティブに活動されている25組の新しい“仲間”が加わりました。

一般助成 個人

正木淑子……………舞台やダンス、イベント等の衣装製作
安 賜勳 Johannes……………演奏活動(オペラ、ミュージカル、コンサート出演)、合唱指導
前川健生……………新城市にて文化振興・オペラ歌手
大嶽隆司……………俳優、舞台演出
小粥幸臣……………Zineによるデジタルとアナログの対比研究と実践
谷川 司……………名古屋市熱田区の神宮商店街の古民家を活用した芸術活動
山口百子……………日本画表現の可能性の追求、教育普及活動
牧野由佳……………愛知県の梯子獅子のドキュメンタリー映像の制作・公開

一般助成 団体

愛知県立芸術大学「病院アウトリーチプロジェクト」委員会
……………愛知県内の病院、福祉施設、保育施設に良質な芸術を届けるアウトリーチ活動
親子農業体験 in 加子母……………休耕田を活用し親子でできる農業体験の開催
名古屋おやこセンター……………児童相談所一時保護所入所児童の芸術体験
FKジュニア弦楽合奏団……………小学生から高校生による弦楽器アンサンブル
合唱団 CORMI……………現代のミサ曲や新しい演奏形態の宗教曲を合唱
もりっこ彩合唱団……………地域の劇場に集い・歌う、元気いっぱいこども合唱団
なごや芝居の広場……………輪・和・笑(わわわ)ワークショップの開催、演劇公演
木曾三川子ども狂言クラブ……………地域の資産を盛り込んだ創作能楽を制作・上演
中川運河ギャラリー……………名古屋市・中川運河の地域開発活動
岡崎地方史研究会……………岡崎地方の歴史文化資料の発見、探求、保存、継承

高校生の文化および体育活動への援助

愛知県高等学校文化連盟……………歌舞伎鑑賞会
愛知県高等学校文化連盟……………狂言鑑賞教室
愛知県立松蔭高等学校……………演劇部
愛知県立西尾東高等学校……………美術部
愛知県立昭和高等学校……………陸上競技部
愛知県立春日井西高等学校……………弓道部
愛知県立東浦高等学校……………硬式野球部



あゆち第96号 ● 2023年10月

発行:公益財団法人 愛銀教育文化財団
〒460-8678 名古屋市中区栄三丁目14番12号
愛知銀行本店内 ☎(052) 251-3211(代)
<https://www.aichibank.co.jp/company/csr/foundation/>

